

平成29年度第1回南城市総合教育会議（議事録）

日時：平成29年5月30日（火） 15：00～16：30

場所：南城市役所 玉城庁舎 2階 農事研修室

参加者：南城市長 古謝景春

教育委員長 金城一男、教育長 山城馨

教育委員 前城盛雄、屋冢哲司、上原廣子

首長部局 総務部長 玉城勉、総務課長 泉直人、総務係長 豊見本勝

教育委員会 教育部長 當眞隆夫、教育総務課長 森田松吉、

教育総務課係長 外間明

1. 市長挨拶

みなさんこんにちは。平成29年度第1回の南城市総合教育会議を開催するにあたり、お集まりいただき感謝申し上げます。

ご承知のように我が南城市は11年目を迎えておりますが、新庁舎の建設が着々と進んでおります。教育行政におかれましては、大里北小学校の老朽化に伴い、用地を確保して造成工事を発注致しました。今後、大里中学校の改築、そして馬天小学校の改築を予定しております。

貧困対策として、母子家庭の親子関係に信頼関係がなくなってきており、子どもが学校に行かなくなったり、親の状況を見て、さらに貧困に陥る状況が続いている。このような家庭環境をどうにか打開できないかと子供が自立できるしくみを検討し、久高島留学センターに市内の中学生を3名程度留学させていきたいと考えている。

この久高島留学センターには過去に登校拒否の子を何名も見てきました。しかし、たった1年でお父さん、お母さんありがとうと言えるような子どもに育つのは親元から離れ、親のありがたさを知る。心の温かみも知ってくる。絶大な効果があり、今後も実施してまいりたいと思います。委員の先生方におかれましては、アドバイスをいただけたらありがたいです。よろしく申し上げます。

2. 教育長挨拶

みなさんこんにちは。一言ごあいさつを申し上げます。

4月14日から26日にかけて古謝市長による市内小・中学校激励訪問がございまして同行させていただきました。久高島の久高幼稚園、久高小中学校、本島内8つの小学校、4つの中学校の先生方、子どもたちを激励していただきました。子どもたちは大変喜んでいました。校長、教頭先生はじめ、先生方もとても感激しておりました。

学校サイドにとりましては先生方の教育実践・子どもたちの学校生活など学校現場の様子を実際に市長に見ていただき、学校の特色や抱える課題、要望事項を伝え、また、行政トップの教育にかける思いを拝聴し、直接意見交換できたことは、とても有意義だったと喜んでいる。公務ご多忙の中、素晴らしい学校激励訪問を実施していただいた市長に対して、心から感謝申し上げます。

引き続き、5月11日から玉城小学校を皮切りに、教育委員会の学校計画訪問が7月初旬まで予定されています。教育委員のみなさん、事務局職員と共に、私も毎回参加しておりますが、どの学校も子どもたちは挨拶が上手です。元気で明るく、素直な子どもたちの姿を見るととても嬉しくなります。また、先生方があふれる情熱として、崇高な使命感、深い愛情で一生懸命子どもたちと接する姿は本当に頭が下がる思いです。教育委員会としても、教育のプロである先生方が心身ともに健康で、働きがいのある教育環境を整備するため、家庭や地域とも連携しながら、様々な教育資源を活用して、精一杯学校を支援しないといけないという思いを強くしているところであります。

本日の総合教育会議では、平成30年度に取り組みたい重点施策について、市長と教育委員会の間で議論を交わし、共通確認ができることと考えております。詳細については眞眞部長からご説明申し上げます。

未来を担う子どもたちは南城市の宝、社会の財産、地域の希望です。本日は南城市の教育行政の充実発展と心豊でたくましい人材を育成するため、活発で有意義な情報交換ができることを願っております。よろしくお願いいたします。

3. 執行部の紹介

4. 会議の進行

古謝市長 ただいまから平成29年度第1回南城市総合教育会議を開会致します。

本日の日程はお手元に配布してあります日程表のとおり進めたいと思いません。意義ございませんか。

委員全員 異議なし。

古謝市長 異議なしと認めます。よって日程表のとおり進めて参ります。

まず初めに「平成30年度に取り組みたい重点施策について」事務局からの説明を求めます。

眞眞部長 「平成30年度に取り組みたい重点施策について」説明

1. 給付型奨学金の創設について
2. スポーツ・文化活動等派遣補助金の補助割合の見直しについて
3. 認定こども園について
4. デジタルアーカイブによる文化財の保存と活用について
5. 教育ビジョンの策定について

古謝市長 これから質疑を行います。質疑はございませんか。

上原委員 認定こども園について、大里地区を手始めにということなのでしょうか。全体的に地区を増やしていこうということでしょうか。

眞眞部長 認定こども園を大里地区で展開できないか。幼稚園を建設してから認定こども園への移行はやりにくいだろうと思っています。それよりは最初か

ら認定こども園なら認定こども園ということで整備していかないと、補助金の出所が違ってきます。

幼稚園で整備した場合には、文科省からになります。認定こども園からとなると、厚労省ということで、補助金の出先が変わってきます。目的外利用となり、補助金返還がないとは言い切れません。補助金の割合も違ってくると思っています。

これから建設する大里地区については、認定こども園についてこれから議論していきますので、認定こども園になるのであれば所管替えということになりますが、建設したあとからは変更しづらいと思います。

上原委員 新設ということですか。現在ある幼稚園についてはそのままですか。

当真部長 基本的には統廃合という方針がでております。幼稚園を無くして、認定こども園に変えていくことになります。

上原委員 今まで幼稚園と保育所が別々に保育するというのでどうも連携が取れていないのではないかと思っていたのですが、小学校で預かる場合に幼稚園からくる子どもたちと、保育園からくる子どもたちとのつけあわせの場面がかなり難しいことがあった。やはり一貫してお互いに共通理解をもって保育をやってきたほうが、子どもたちによりいい環境になるのかなと感じます。できれば早めに認定こども園を作っていて、佐敷地区、知念地区それぞれの地区で、一貫した保育ができるようなシステムができれば子どもたちのためにいいのではないかと感じています。進級するにしたがって、それぞれ違う方向で変わっていく。やはり子どもたちとしても一貫していない、そのつど子どもたちが慣れるのに苦労しているのではないかという気がします。できれば早めにこども園ということで一貫教育（保育）をやっていたほうがいいかと思えます。

古謝市長 上原委員のお話は建物を作って大里地区は統合する。当然認定こども園が望ましいということで、他の玉城・知念・佐敷地区については既に建物は作られている中で、こども園を含めて検討すべきではないかというお話ですから、それは那覇市、うるま市を含めて検討されていますので、可能

性は十分あると思います。委員のみなさんが認定こども園として方向性を定めていく、議論をしていけばおのずと方向性が決まると思います。今の状況についてご意見はございませんか。

金城委員 認定こども園について、資料2ページにもありますが、幼稚園型の保育が必要な子どもたちのための保育時間を確保するなど、保育所的な機能を備えて認定こども園としての機能を果たすタイプなど、大里地域もやっていくのだったら、全地域同じようにやったらどうか。南城市の中で雇用がたくさんあるわけではなく、他の市町村に行って仕事をするときには子どもを預けないといけない。職場が遠いところだと通勤に1時間以上かかる。午後7時頃まで預けないと仕事ができない人たちも出てきますので、そういうことを踏まえれば4地区同じように行うとうまくいくと思っています。

古謝市長 現状把握について幼稚園では行っていますか。

當眞部長 はい。

古謝市長 預かり保育など保護者に大変喜ばれています。市民が働きながら安心して預けられるのであれば、それにこしたことはない。両委員がおっしゃった内容も含めて、保護者に実施したい内容について、アンケートを実施してはどうか。

當眞部長 わかりました。

古謝市長 他にございませんか。

前城委員 幼稚園や保育所で働く人は両方の免許（資格）が必要か。

當眞部長 幼稚園と保育所は免許が違います。幼稚園は文科省、保育所は厚労省になり、二つの免許（資格）が必要になります。

金城委員 平成27年度第1回総合教育会議のときに南城市の教育及び文化の振興に関する大綱について話し合っています。その中に乳幼児福祉と連携して、幼児期や就学前等の人格形成期における教育を生涯学習の一環として推進するとともに、家庭と地域が一体となった子育て環境の向上や、幼児を持つ親に対する支援に努めますとありますが、そのようにシフトしていきますか。

古謝市長 はい。乳幼児福祉と連携して、支援に務めます。

認定こども園については、市全体で検討を進めていくということによろしいでしょうか。

委員全員 異議なし

屋垣委員 給付型奨学金の創設について、奨学金を与えるときに年度ごとに更新を考えているのでしょうか。四年制大学の進学が決まって、奨学金が決定し、その後給付するだけとなると、問題ではないでしょうか。年度ごとに成績表とか、できれば家計簿をつけてもらって提出してもらい、どのような大学生的学习を送っているか、調査することも必要だと思います。ぜひその点をご検討いただければと思います。

當眞部長 これについては当然税を投資するわけですから、しっかりと毎年チェックしていく必要があります。給付したけれども、途中で辞めてしまうとかあるいは所得が増えたとか、本来給付対象ではない人が対象になったら困りますので、そのへんはきちんと書類請求をしていきたいと思っています。

屋垣委員 ありがとうございます。

古謝市長 親が遊行費に使い込むケースもあるので、しっかりチェックする必要がある。

スポーツ・文化活動等派遣補助金の補助割合について、現在小・中学生に対し一律8割を助成していますが、困窮世帯の場合には100%補てんしたほうがいいのかという検討もしている。

金城委員 高校はいろんな大会がでてきましたので、平成14年頃に改正して3割自己負担を実施している。

當眞部長 小学校に多いのですが、いろいろな大会が多い。中学校は中体連とかしっかりとした組織があるのですが、小学校はないものですから、いろいろな大会の申請がある。昨年度は57件、是正すべきではないかという話し合いをしています。大会のライン引きが必要であり、全体的な見直しが必要である。高校生で一流選手になるといろいろな大会に出て家計がかなり厳しくなる。高校生についても優秀な人材の育成ですから、合わせて検討が必要ではないかと思っています。

上原委員 派遣補助金を支給する条件をもう少し詳細にやったほうが良いと思いま

す。年子でスポーツ選手がいたらかなり厳しいと思いますので、支給する条件を県大会の成績を踏まえての条件にするなど検討が必要と思います。また、奨学金を受給して県外の国立の大学を卒業しても月9万円の奨学金返済があり、県内に戻りたくても奨学金返済のために県外に就職するケースがあった。返済しなくてもいい給付型奨学金の必要性を感じているが、条件整備をしっかりとってほしい。

古謝市長 斎場御嶽の入館料が年間1億円入り、観光協会に3千万円助成し、1千万円ぐらいを困窮している子どもたちへの人材育成に使ったらどうかと検討している。

前城委員 南城市の特徴として豊かな自然、そして歴史文化、遺跡とまさに宝の山といえるような地域であるが、孫と見学に行ってみると草が伸びていて、放置状態である。第三者が見てもここがどういう場所なのか分からない。南城市全体凄いところで、まさに市内まるごとミュージアムの資源を持っているので、あとはそれをどう発信し、どう見せるかということで、できましたら議員を含めてデジタルアーカイブとは何なのか、それを担う専門家が市内にいるのか確認が必要である。行政に任せれば何千万円と予算をかけて作ることができるが、みんながデジタルアーカイブを理解し、コンテンツを活用してWEB発信してほしい。

私は教育現場に関心があるのですが、沖縄県全体が離島県なんですね。この離島というのはいろいろ発信するということで、日本全体、世界に南城市をアピールすることができます。教育現場で活動する先生方の研修を実践する必要があると思います。電子黒板等そろそろ必要な時期になっていますので、先生方のやる気をだせば非常にいいと思います。

金城委員 南城市のグスクの冊子を作るときにグスクに行ったが、駐車場がない。グスク関連を観光に結びつけたいのであれば駐車場の整備をしてほしい。

當眞部長 玉城グスク、糸数グスクなど沢山の方が訪れています。ただ、進入路もなければ、駐車場もない。そういうところでは情報発信もできない。一括交付金も後5年しかありませんので、一括交付金を活用してその中で整備していく必要があると思います。

前城委員からご指摘がありました教育現場の活用について、教育現場におけるICT機器の環境づくりが大事です。昨年から電子黒板の導入を実施

していきまして、合わせて各教室でWi-Fiが活用できる環境整備を行っています。いつでも、どこでもICTを使った教育ができる環境づくりが今後求められてくると思います。文科省でも学校のICTをしっかりと整備しましょうと謳われております。与えられた環境をしっかりと使えるような環境づくりと教職員への操作研修も必要ではないかと思っています。

教育部内ミーティングがありました。電子黒板がうまく活用されていない。電子で教科書を映しているだけです。電子黒板は書くことができます。また、タブレットを併用することで、無償のアプリを利用することができる。お金を使わなくても幅を広げることができるので、活用を促進していきたい。

古謝市長 6月1日にGPSの精度向上を目指す政府の準天頂衛星が打ち上げられ、スマートフォンの活用などによって、多言語アナウンスが可能になる。子供たちの教育にも広がっていく。時代が変わりつつあるので、ぜひ先生方にはコンピュータ、ICTには対応してほしいと思います。

前城委員 先生方は自分の授業にはこだわりがあり、新しいことをやろうとしない。できれば市でも独自に研究指定校を指定して、具体的に取り組んでほしい。

當眞部長 わかりました。馬天小学校の理科の先生に詳しい方がいて、県の教育長が視察に来られたと聞いています。そういう方がいらっしゃる学校を指定校に検討したい。

古謝市長 ドットプログラムについて話しているか。

當眞部長 ドットプログラムについて検討していきまして、6月初旬にドットソリューション株式会社と関係課と合わせて実施検討していきます。

前城委員 国際比較調査で日本の子どもたちは自己肯定感が一番低い。将来に対する夢・希望も低い。それを克服しなければ教育は難しい。子どもたちが夢をもって人生設計して、それに向かってがんばる。そういう気持ちになれば夜遊びもしないと思うし、授業も寝ないだろうし、一生懸命やるんじゃないかと僕は思います。子どもは子どもなりの夢があると思いますが、現実的でなくても夢を持たすべきだと思います。野球選手を目指すのだったら体を鍛えると思うし、食事もしっかりと食べると思うし、自己管理もやるだろうし、あるいは宇宙飛行士を目指すのだったら、英語の勉強もがんば

るだろうし、宇宙の勉強もするだろうし、自分の夢を持つことによってそれに向かって勉強する。目標に向かってどうすればいいか教えこんでもらい、僕は市全体としてそういう夢を持たず教育の在り方を認識させたい。

先生方は一生懸命資料を作成していて、頭が下がるんですが、全部やっていたら24時間あっても時間が足りない。波及効果のある教育活動、このツボをおさえれば自然にやるべきことができると思います。もうひとつは安倍総理が大学まで国が責任を持って教育しようと、国のトップリーダーが言い出しています。日本という国は、教育は自己責任という伝統が根強いと思います。そうじゃなくて、教育は地域社会でそういう支援をしていく、僕はこの2点を重視してほしいと思います。

古謝市長 意見について、委員の皆様一人ずつ意見をどうぞ。

金城委員 南城市の地域のことを知っていて、小学校から地域の文化担当が関わりながら、地域のことを学習する。学校は学業を徹底するところですから、基礎を徹底する。教科書を徹底するのは全国一律だと思っています。それを徹底しながら当然部活動みたいに地域にいい人材がいたらコーチとして依頼する。さらにいろんな職種で活躍する人材が南城市から出てほしい。大学教授、弁護士、公認会計士、医者も必要なんです。南城市は医者も少ないんです。いろんな仕事に就くために、地域の中で小・中学校で基礎的な部分をきちんとやっていけばできると思っていますし、獣医や薬学、外交官公認会計士など県外の大学に行かないといけない。文化財も豊富だし、環境に恵まれ感性が豊かになると、大人になってすごい力を発揮すると思います。

屋宜委員 私は地域の子どもは地域で育てる、昨日も奥武島のハーリーがありました。地域行事にこどもたちを積極的に参加させる。地域の方とこどもたちの交流、その中でこどもと大人の違いを知ったり、大人の仕事の内容を聞いたりすることもあると思います。大里地域では毎年中学校でふるさと伝統芸能祭があり、地域の伝統行事を学んでいくというのがあって、夏休みもこどもたちも落ち着いて生活ができているというのがあると思います。先月県の市町村教育委員会連合会の研修に参加したときに北谷町もふる伝と同じようにエイサー団体にこどもたちが参加したことによって、非常にこどもたちが落ち着いたということもあったので、大里地域のふる伝

というのは前からやっていて、とてもいいのは分かっているので、できれば南城市の他の地域でも同じような取り組みをやってもらって地域とのつながり、地域で子どもたちを守り育てるのをもっともっと推進していければと思っています。

上原委員 私たち教育委員は人材育成を柱に将来的な南城市に鑑み、前城委員と金城委員長もおっしゃっていましたが、地域を知って小学校では地域探検とか地域を見て学ぶ、そのために2年生、3年生から受水・走水に行ったり、垣花樋川を自分たちで見て学習するんですけど、ただ学校の教員は異動があるので地域のこと知っているかと言ったらあんまり知らない。そういうことではデジタルアーカイブを充実させて、先生方が異動してきても事前に教材研究ができるという形に持ってくると、先生方がタブレットを持って活用して子どもたちと学習できる。もうひとつは将来的にグローバルな子どもたちを育成するために、世界中の仕事・地域・歴史・文化を地球規模で見れるようにやっておかないと、子どもたちのキャリア教育に結びつかないと思います。大学を出て資格がないとできないようなところまで提供できるような教育を展開できたらと思います。中城がやっているような英語で授業ができるように提供したり、地域に外国の方が来てもそれなりに自分のもっている地域を自分の語学を生かして提供できるよう将来的にそういう子どもたちの育成が必要だと思っています。

前城委員 私が那覇高校に勤めていたときに同窓会があり、毎年1回開催しているんですが、600名から700名集まりました。そこに集まっているのは県知事、社長、弁護士、公務員、医者とかそうそうたるメンバーが揃っている。子どもたちは目の前に学べる対象がいるのです。その家庭の子どもたちは親などに教えられて、キャリア教育が徹底されている。それに比べて南城市は厳しい。周りの環境、教える大人の環境が全然違う。那覇高校周辺にある病院の病院マップにある出身校は6割が那覇高出身というくらいレベルの高い大人が家族の中において、キャリア教育が自然に身についている。南城市でそういう環境は厳しいので不利な環境をどう克服するか。南城市のキャリア教育の課題です。私は南城市を県内1のキャリア推進自治体になってほしい。そうなれば絶対子どもたちは変わってきます。

古謝市長 教育にとって人材育成は最大の目的。我々がやっている奨学金制度は市長が変わっても未来永劫続けていけるよう希望する。策定については議論しながらいいビジョンが策定できるようよろしくお願いします。

金城委員 厚生労働省に南城市の出身の子がいます。向陽高校出身でそういう人材も必要です。

古謝市長 他に質疑はございませんか。

ないようですので、「平成30年度に取り組みたい重点施策について」を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり進めていくことにご異議ございませんか。

委員全員 異議なし

古謝市長 異議なしと認め、原案のとおり採択されました。

古謝市長 次に「今後のスケジュールについて」事務局より説明をお願いします。

事務局 別紙（平成29年度 総合教育会議と関連する主なスケジュール（案）を説明

古謝市長 「今後のスケジュールについて」を採決します。お諮りします。

本案は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

委員全員 異議なし

古謝市長 異議なしと認め原案のとおり決定したいと思います。

古謝市長 以上で会議を閉じたいと思います。